

離床センサー Vol.117 2019.4

現場レポート!



離床センサーをお使いの現場からレポートいたします!



愛媛労災病院様の導入例とその効果について

【使用センサー】 コールマット・コードレス ×11台 / サイドコール・コードレス ×12台

Q. 離床センサーの導入基準を教えてください。

以前に参加した学会で「離床センサーを病床数の10%使用している」という他院発表の影響から、当院も同じ考えで取り組み、人的対策と物的対策のバランスを見て対策をしています。センサーの購入基準は「どのタイミングで鳴るのか」「現場での使いやすさ(汎用性)」「コストパフォーマンス」です。

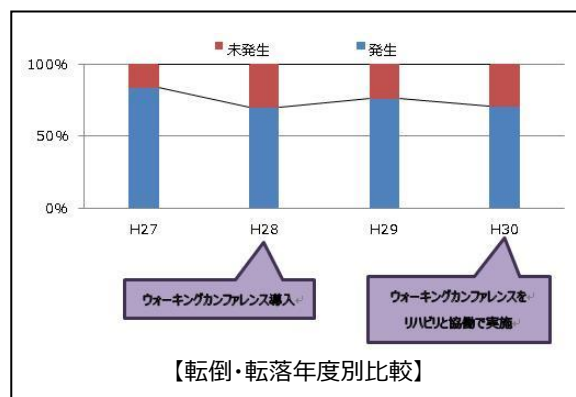
明確な使用基準はありませんが、入院当日または病状に変化のあった日にウォーキングカンファレンスを行って使用を決めています。翌日と次の週にもアセスメントを行って、その時の状況に合わせて継続使用の判断をしています。また、多職種でウォーキングカンファレンスを行って患者さんのベッド周りの環境をチェックして対策を講じることも事故の未然防止策のひとつです。

Q. 離床センサーの使い分けの基準や使用効果を教えてください。

立ち上がり動作に不安がある患者さんには少し早めのタイミングで報知する「サイドコール・コードレス」を、独り歩きに不安がある患者さんには「コールマット・コードレス」を使用しています。

コールがあってスタッフが駆けつけると患者さんの動き出しのタイミングで介助できるので転倒予防に大きな効果があります。

また、以前はケーブルタイプのセンサーを使用していたのですが、コードレスにしてからは断線などの故障が無くなったので効率良く使用できています。離床センサーは転倒・転落対策には無くてはならない用具になっています。



Q. 離床センサーの管理方法を教えてください。

使用開始・終了の際に院内のネットワークシステムに入力することとしています。看護部医療安全対策委員会の副委員長が毎朝入力内容をチェックして使用状況を把握しています。現在のところ、保管する間もなく空きが出ればすぐに必要な患者さんに使用するという状況が続いています。



ご紹介している工夫は、全ての現場で有効というわけではありません。患者様の容態や現場の状況をご確認の上、ご参考下さい。